

インランドポート(OICT)の概要と コンテナマッチングの取組み

2016年2月17日

(株) 太田国際貨物ターミナル

私たちは、北関東における国際物流の拠点を目指します



太田国際貨物ターミナル(Oict)の概要

Ota International Cargo Terminal

会社概要

- 社名：株式会社 太田国際貨物ターミナル
(群馬県太田市 第3セクター)
- 所在地：本社 / 群馬県太田市清原町12-1
海上CT / 群馬県太田市緑町81-12
- 設立：平成11年5月12日
- 開業：平成12年4月1日
- 資本金：1億4,240万円 (太田市25% 出資)
- 株主数：76 法人・団体

OICT 位置図



主な営業業務内容

- 保税蔵置場 (東京税関長許可) の管理・運営
・ 外国貨物の荷捌き・蔵置・通関等
- 貨物取扱：輸出入貨物(外国貨物)、国内・一般貨物
- 物流業務：荷役・梱包・保管・流通加工・物流管理
- 輸送業務：集配、港湾・空港地区輸送(保税運送)
- 賃貸業務：事務室・倉庫等の賃貸

～ターミナル内の開設官署、入居団体・企業～

- 開設官署：東京税関前橋出張所 太田派出所
- 通関業者：5社
- 輸送業者：2社
- 物流・輸送：1社
- 荷主企業：1社
- 証明機関：1法人(検数・検量・検査等の証明)
- 組合団体：1団体(流通卸組合)
- 保税蔵置場：OICT

● 本社ターミナル



本社ターミナル：群馬県太田市清原町12-1（太田流通団地内）

施設概要

- 敷地面積 : 37,166 m²
- 倉庫面積 : 8,550 m²（倉庫5棟）
- 保税蔵置場 : 5,800 m²（倉庫及び土地）
- 管理事務所 : 2棟
- 取扱貨物 : 航空輸出入貨物
海上輸出入貨物 (FCL、LCL)
内国貨物
- 主な業務 : 保税・通関機能・保税運送
集配・荷役・保管・梱包・
物流管理・流通加工、等

● 海上コンテナターミナル



施設概要

- 敷地面積 : 58,454 m²（法面含む）
- 整備面積 : 37,627 m²
- 倉庫面積 : 1,650 m²（1棟、下屋併設）
- 保税蔵置場 : 4,840 m²（倉庫及び土地）
- 管理事務所 : 1棟、守衛所・現場事務所
- 取扱貨物 : 海上輸出入貨物 (FCL)
内国貨物
- 主な施設 : コンテナバンパー（実入、空）
シャーシプール
コンテナチェックゲート
シャーシ置場、リーファー電源
コンテナ荷役機械（3台）
- 主な業務 : 保税・通関機能・保税運送
コンテナバンパー業務
集配・荷役・保管、等

海上コンテナターミナル：群馬県太田市緑町81-12（太田さくら工業団地内）

● コンテナバンプール機能と通関・保税機能



コンテナ蔵置機能 (バンプール)



コンテナリフト作業 (荷役機械)



コンテナチェックゲート (IN、OUTのコンテナチェック)



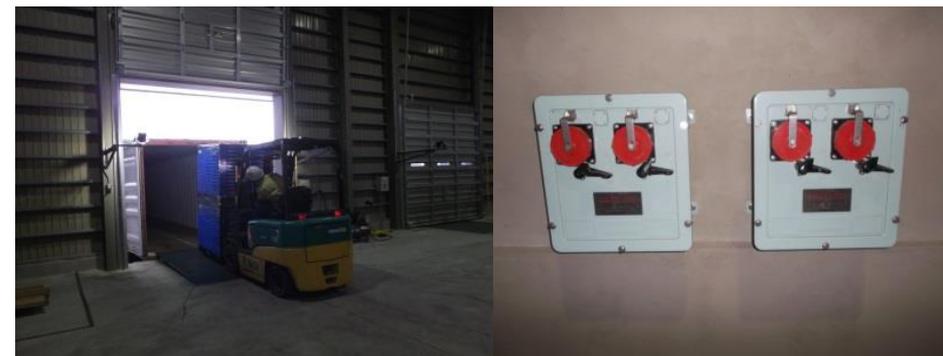
車両及びコンテナ整備場

シャーシ置場



コンテナ通関エリア

外貨コンテナ蔵置



バンニング・デバンニング作業

リーファー用電源

● 平成26年度 海上コンテナ取扱実績

1. 輸出入コンテナ取扱実績（外部業者手配分は除く）

・輸出コンテナ：20,440 TEU

・輸入コンテナ：7,711 TEU

※ 利用港湾：京浜港（東京港：90%、横浜港：10%）

2. コンテナマッチング実績（契約船社及び荷主CRU）

・マッチング数量：5,531 TEU

3. OICT施設でのコンテナ積卸実績

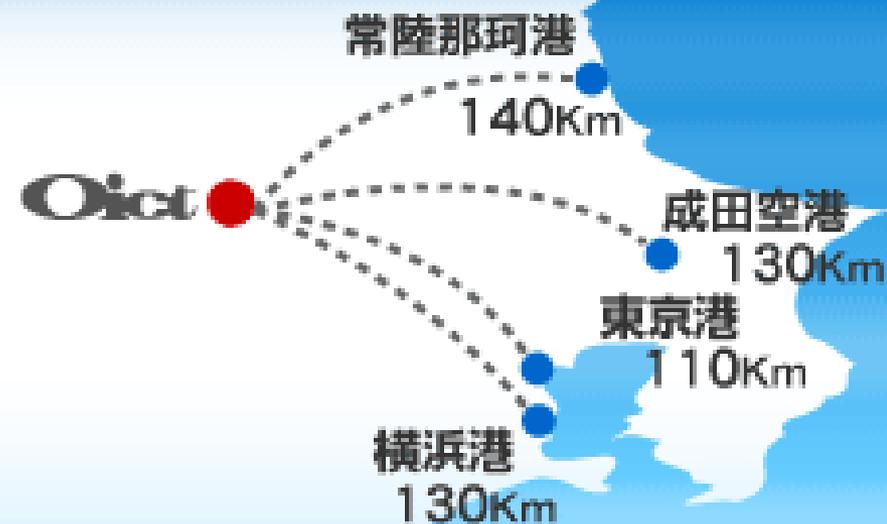
・輸出（バンニング）：4,348 TEU

・輸入（デバンニング）：305 TEU

※ コンテナの貨物積卸し場所は、ほとんどが荷主の指定施設で作業を行なっている。



港湾・空港地区への輸送距離



● コンテナマッチング推進による海上コンテナ輸送効率化の取組み

1. インランドポートの施設整備と機能強化

- ① 施設・設備の充実を図る（インランドポートの機能強化）
- ② 付帯作業業務の向上を図る（利用者への利便性向上）

港湾機能の補完施設として
一翼を担える施設づくり

2. コンテナマッチングの推進と拡大

- ① バンプル契約船会社の拡大及び利用推進
 - ・現在の契約船社：5船社（K-LINE、OOCL、NYK、MOL、CSCL）⇒ 契約船社拡大
- ② コンテナラウンドユース（CRU）の推進
 - ・輸出入企業及び船社へのCRU推進（PR活動、勉強会・検討会等の実施）
 - ・情報管理体制及びマッチング機能の構築（情報管理及びマッチング調整）
 - ・コンテナ輸送体系及び輸送体制の構築

【平成27年度の取組み】

- 経済産業省「次世代物流システムに関する調査事業」
『コンテナラウンドユースの推進方策の実証的研究』

コンテナラウンドユース推進協議会設立準備委員会

コンテナラウンドユースWG

コンテナラウンドユース太田サブWG

● 経済産業省 「次世代物流システムに関する調査事業」

『コンテナラウンドユースの推進方策の実証的研究』

『コンテナラウンドユース太田サブWG』の概要

■ サブWGの目的

※ 対象地域：群馬県太田市及び周辺地域（輸出入企業によるWGの開催）

- ・複数荷主企業によるN:NのCRUの実証的調査・研究とビジネスモデルの検討
- ・N:NのCRU実現に向けた体制・仕組みづくりの検討

■ 実施期間：平成27年12月～平成28年2月（サブWGは、3回開催）

■ 構成員

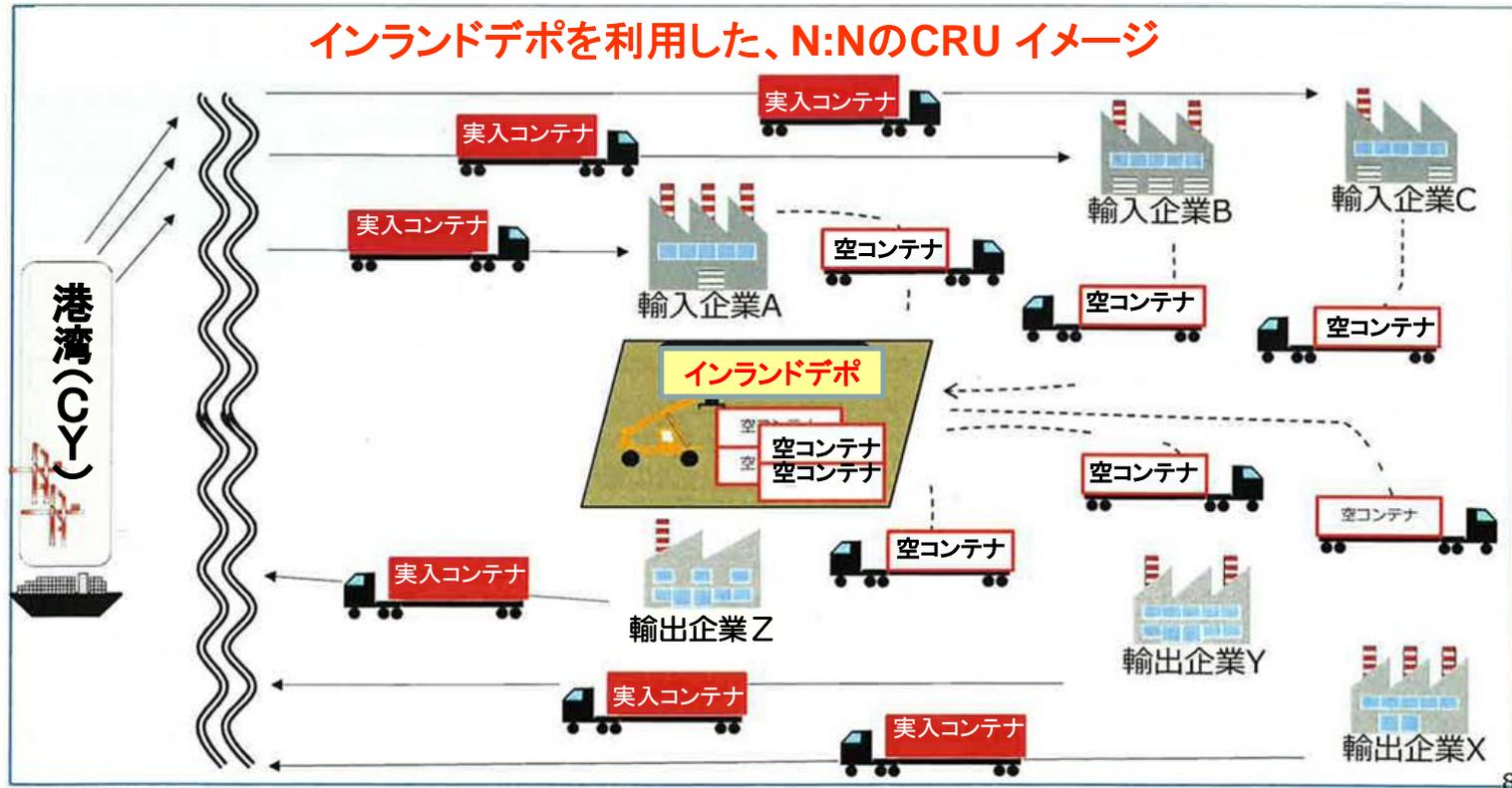
< 座 長 > ・味水 佑毅（高崎経済大学 地域政策学部 准教授）

< 委 員 > ・荷主企業（輸出入業者：10社）
・インランドデポ（OICT）

< オブザーバー > ・経済産業省、国土交通省、群馬県
・群馬県太田市、太田商工会議所、東京税関前橋出張所

< 事務局 > ・（公社）日本ロジスティクスシステム協会、（株）三菱総合研究所

～ 複数の輸出入企業間のCRU(N:N) イメージ図 ～



■ 調査・研究の実施内容

- ・CRU ビジネスモデル実現に向けたケーススタディ (情報交換及び現状認識の共有)
- ・荷主企業へのコンテナ実態調査 (参加荷主からの情報提供)
- ・調査情報に基づくCRUシミュレーション結果の検証
- ・N:NのCRU実現に向けた体制・スキームの検討
- ・太田周辺地域におけるCRU実施体制の検討
- ・CRU実施体制(案)、検討・課題の整理及びまとめ